



第 12 回

令和 元 年 10 月 21 日

No.1528

会 長 橋 本 亜紀子

幹 事 高 橋 道 成

例会日／毎週月曜日 12:30～

例会場／トキハ会館 4F

TEL 097-532-0611

FAX 097-532-8386

会長スローガン

「楽しもう!ホーム例会」

出席率80%以上を目指して

Email : oita1985rc@mist.ocn.ne.jp

ホームページ : www.oita1985rc.jp



2019 - '20年度国際ロータリーのテーマ

「ロータリーは
世界をつなぐ」

R I 会 長 マーク・ダニエル・マローニー
RI第2720地区ガバナー 瀧 満
大分第4グループガバナー補佐 岩崎 哲朗

■ 本日のプログラム (10月21日)

12:30 点 鐘
ロータリーソング 「それでこそロータリー」
ゲスト・ビジターの紹介 会 長 橋 本 亜紀子
会 長 の 時 間 会 長 橋 本 亜紀子
出 席 報 告 出席担当 利 光 征 行
幹 事 報 告 幹 事 高 橋 道 成
委 員 会 報 告 「関係委員会」
ニコニコタイム 姫 野 勇 人

13:00 「自己紹介と将来の目標」
ワルダナ トリスカ シャタワ ウイスヌ さん卓話
(米山奨学生)

* 今週のお祝い

結婚記念日 藤田 敬治会員 (10月27日)

■ 第11回例会の記録 (10月7日)

「持続可能な観光先進国へ向けて」
国土交通省 九州運輸局
大分運輸支局長 嘉村 英夫様

・ 出席報告 (10月7日)

会員総数	21 名
10 月 7 日	
出席免除	0 名
出席会員数	16 名
出席率	76.19 %
ゲスト	2 名
ビジター	1 名
9 月 9 日	
修正出席率	85.71 %

ロータリーソング 【それでこそロータリー】

どこであつてもやあと言おうよ 遠い時には手を振り合おうよ
見つけた時にゃ それでこそ
おいと呼ぼうよ ローローロータリー

会長の時間 (10月21日) 会 長 橋 本 亜紀子

米山記念奨学会

今月は「経済と地域社会の発展(世界共通)」と「米山月間(日本のみ)」です。

米山記念奨学会について触れてみたいと思います。

ロータリー米山奨学会は、将来母国と日本との架け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは、学業に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、異文化理解やコミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれます。民間最大の奨学事業であり、世話クラブやカウンセラー制度による心の通った支援があるのも特色です。

そもそも日本で最初のロータリークラブを創立した米山梅吉氏の功績を記念して、1952年に東京RCが米山奨学制度を設立しました。その2年後には奨学生第1号のソムチャード君がタイから来日し支援が始まりました。そして奉仕の輪が広がり、その3年後の1957年には国内全クラブの合同事業として「ロータリー米山記念奨学委員会」が結成され全国組織となりました。合言葉が「月に煙草一箱を節約して」で、会員1名あたり月額50円の寄付金を募る運動がスタートしたとのことです。その後世話クラブ制度もでき、1967年には当時の文部省からの許可を得て財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

その後カウンセラー制度や米山功労者制度ができ、台湾や韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴルに元米山奨学生による米山校友会が発足しました。2012年には公益財団法人となり、125か国以上の国と地域に及ぶ累計21000人を超える奨学生を支援しています。

なぜ外国人の留学生支援だったのでしょうか。米山氏自身も20歳で渡米し8年間の苦学の留学生生活を送りました。帰国後三井銀行に入社し取締役となり、その後三井信託株式会社を創立、晩年は財団法人三井報恩会の理事長として社会事業・医療事業に奉仕された方です。米山氏が亡くなったのは終戦の翌年で、米山記念奨学制度が立ち上がったのは6年後のことでした。「今後日本の生きる道は平和しかない。それをアジアにそして世界に理解してもらうには、1人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが日本のロータリーにもっともふさわしい国際事業ではないか。」という想いがあったようです。

それから67年の歳月が流れましたが、民間外交として世界に平和の種子を蒔くという使命は一貫しており、むしろ今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えると、その重要性は増しているのではないのでしょうか。留学生の支援は、未来に向かっての平和の架け橋となる尊い奉仕なのです。

当クラブにも現在ベトナムからの留学生ジャンさんがいらっしゃいます。大分市内にも地区内にも何人もいます。このようなロータリーの使命を胸に、未来を見据えて育てていくことが大切なのではないかと改めて考えました。

国土交通省 九州運輸局 大分運輸支局長 嘉村 英夫様

2018年の訪日外国人旅行者数は、3,119万人(対前年比8.7%増)と初めて3,000万人を突破し、九州においても511万人を記録するなどいずれも過去最高でした。今後、日本は旅行者の滞在日数をどう増やし、お金をもっと落として頂くかなどに知恵を絞り、「持続可能な観光先進国」へ向けて、成長していくことが望まれます。

九州をはじめ、日本を訪れる外国人客が伸びている背景には、まず円安があり、中国や韓国などアジアからの「安近短」な旅行先として選ばれていることです。併せて、九州各地の空港でLCCを中心に国際線の便数が増加し、中国からの大型クルーズ船による入国者数は、寄港地が欧州や東南アジアにシフトした影響で前年を下回っているものの、空路などによる入国者数は好調に推移。

昨今、日韓政治問題を端緒にLCCの運休や観光客減少による影響など九州がアジアを中心とした国、地域からの来訪に偏っており、カンントリーリスクがあることも事実です。また、外国人入国者の滞在日数が短く、一人当たりの旅行消費額が関東、関西に比べて低いといった課題もあります。

訪日旅行にみられる旅行形態やニーズの変化は、「団体旅行」から「個人旅行」へ、「モノ消費」から「コト消費」への移行がみられるようになっていきます。受入れ側である日本の課題は、人口減少、少子高齢化、マイカーの進展に伴う地域交通ネットワークの再構築であり、この解決策のひとつとして、訪日外国人旅行者の受入れ増による交流人口の拡大が有効です。

観光の主役は、地域の皆様であり、カジュアルだけではなく、ラグジュアリーな観光も提供し、九州に行くこと自体をブランド化することです。九州には、まだまだ伸びる素地があり、九州で長期間過ごすバカンスを提供するなど、ある意味「贅沢」を提供することが必要です。

訪日外国人旅行者の滞在満足度向上や滞在時間の増加を促すためには、地域における観光ストーリーを外国語で分かりやすく伝え、観光資源の魅力をよく理解して頂くことが重要です。地域を観光で元気にするためには、時代の変化・トレンドをつかむこと、課題解決に対する適切な対応が求められていると考えています。



幹事報告

- ・中津市飲食業加盟店「安心・安全な飲食店ガイド」送付のお知らせ

理事会報告

①キャッシュカード作成について 承認

クラブ通帳のキャッシュカードを作成する。今後はATMにて入出金振込とし端数がある場合のみ窓口の利用とする。

②クリスマス例会について 承認

日時：12月23日(月)18：30～20：30 場所：ブリッジ
親睦より100,000円補助 クラブ内関係者のみにて行う

③米山特別寄付について 承認

10月の米山月間に合わせて特別寄付を行なう。

④10月28日(月)例会を11月3日(日)地区補助金プロジェクトへ振替 承認

ゲスト・ビジターの紹介

ゲスト：嘉村 英夫様(国土交通省 九州運輸局 大分運輸支局長)
グエン・ティ・フーン・ジャンさん(米山奨学生)
ビジター：高山龍五郎様(大分RC)

例会の予定

- 10月28日(月) 例会変更11月3日(日)へ振替
- 11月 3日(日) 地区補助金プロジェクト 農業体験 芋掘り
- 11月11日(月) 社会奉仕委員長(吉田委員長)の卓話
- 11月18日(月) ゲスト卓話(NHK局長 高橋 善行様)
- 11月25日(月) コンパル昼例会(303会議室)
- 12月 2日(月) 年次総会
- 12月 9日(月) 国際奉仕部門長 小野健介部門長の卓話
- 12月16日(月) 職業奉仕セミナー報告
- 12月23日(月) クリスマス例会
- 12月30日(月) 休会

報告

- ・10月7日(月)卓話ゲスト嘉村 英夫様より「今後のクラブ活動に役立てて下さい」と例会終了後、謝礼を辞退されお返しいただきました。

ニコボックス

★高山泰四郎会員(2口)

- ①本日卓話をお願いします嘉村英夫様には、ご多忙の中ご無理をお願いしましたので1口。
- ②9月に第15回「日韓親善会議」に出席しました。両国関係悪化の中でしたが、両国ロータリアン同士の親睦交流を深めて参りました。“世界平和に国境無し”という事で1口。

★高橋道成会員(1口)

10月1日にジャンちゃんの卓話に日田中央RCまで矢羽田会員と同行させて頂きました。矢羽田さんのご出身になる日田めぐりの案内をしてくれた事と、ジャンちゃんの将来のアドバイスを当クラブ会員の皆様にいただきたいという事で、1口させて頂きます。

★姫野勇人会員(1口)

台風19号がそれて日本列島に被害が出ない様、ロータリーの神様に祈念して1口させて頂きます。